



小児医療向上に貢献

瑞宝小綬章

安次嶺馨さん(75)

元県立南部医療センター！
こども医療センター院長

小児科医になって半世紀。県内の小児医療の向上に大きく貢献し、県内初のこども病院の設立にも尽力し初代院長を務めた。

復帰前、本土への留学選抜試験を受けて鳥取大学医学部に入學し、医師を目指すことに。東京でのインターンや中部病院での臨床研修を経て米シカゴに留学。

米国で学んだ高度で最新の治療や診断方法を持ち帰り、発展途上だった沖縄の小児医療の向上と後輩らの指導に奮闘した。

県立3病院で院長を務めた異色の経歴には、こども病院開設に懸ける強い思いがにじむ。2003年に中部病院院長に就任後わずか1年で那覇病院(当時)院長

(那覇市宇栄原4の11の9)に異動。「予想外だったが、

06年に新設された南部医療センター・こども医療センターの院長に就任。「本土に行かなくても手術ができるようになった。心臓病の子のいる親ら患者団体の地道な運動が行政を動かした。市民と医療人の思いが一致したと胸を張る。

沖縄の健康寿命が悪化していく状況を憂う。「重(わらひ)どう宝。健康な子が健康に育っていきける社会づくりが大切だ。50年先を見据えて地道に取り組む必要がある」。沖縄の医療や子どもたちの健康を思う熱い気持ちは冷めやらない。

2017年11月3日の沖縄タイムス